

ディボーション質問表



コリント人への手紙第二は、大きく分けると、「悔い改めた教会へ（1～9章）」と、「敵対者たちを念頭に（10～13章）」の二つになります。その中で、今週の箇所は「使徒の使命（2：14～6：10）」と「パウロの勧めと喜び（6：11～7：16）」の部分です。

25日（月）コリント人への手紙第二 5：1～10

1. 今日の箇所、「地上の幕屋」（1節）と「天からの住まい」（5節）がいろいろな言葉で対比されています。それぞれがどういう意味なのか、その対比を通してパウロが言おうとしている事を考えてみましょう。
2. 「うめき」（2、4節）という言葉があります。この言葉は何を意味しているでしょう。また「望み」（2節）という言葉と同じ意味の内容がいくつかあります。それらの内容に注意して読んで見ましょう。
3. 御霊の働きは何であると今日の箇所では言われているのでしょうか？

26日（火）コリント人への手紙第二 5：11～19

1. 神を恐れる人とはどのような人だと語っていますか？ 自分の言葉で表現してみましょう（11～15節）。
2. 「キリストの愛が私たちを取り囲んでいる」（14節）とパウロは言っていますが、どういう意味だと思えますか？ 彼はこの文脈の中でどうしてこのように言っているのだと思えますか？
3. パウロは神が和解の務めを与えてくれたと言っています。ここでいう和解とは何でしょう。また、和解の務めとはどのような働きでしょうか？

27日（水）コリント人への手紙第二 5：20～6：10

1. 「懇願」（20節、6：1節）という言葉が出て来ますが、それぞれどのような意味で使われているのでしょうか？
2. パウロは自分に与えられている務めをどのような思いで行っているのでしょうか？ その姿勢と懇願とはどんなつながりがあるのでしょうか？

28日（木）コリント人への手紙第二 6：11～7：4

1. 「心を広くしてください」（13節）と似た表現が11節と7：2節にもあります。これらの言葉は何を意味しているのでしょうか？
2. 14～20節の中で、反対の意味の言葉が何組か出て来ます。それを書き出してみましょう。そしてこれらの言葉が全体として何を言おうとしているのか考えてみましょう。

29日（金）コリント人への手紙第二 7：5～16

1. 「慰め」（4、6、7、13節）という言葉が出て来ます。ここで言われている慰めとはどのような事でしょうか？ この手紙には他にも1：3～7節、2：7節、13：11節に「慰め」という言葉が出て来ます。
2. 「悲しみ」という言葉が繰り返し出て来ます。この言葉に注目しながら、この箇所の意味を考えてみましょう。ここには、2種類の悲しみがあります。それは何でしょうか？
3. 人を戒める際と自分が戒められる際、それぞれに大切なポイントを見つけてみましょう（8～16節）。

30日（土）コリント人への手紙第二 2：1～13

1. 昨日の箇所を更に理解する為に、この箇所を読み返してみましょう。

***今週の箇所から3日以内に始められ、具体的、実現可能で計測することができる計画を聞いてみましょう。**